

JAF AE Newsletter



No. 25 (August 2008)

第23回全国大会 / 金沢学院大学にて開催

プログラム

日本「アジア英語」学会・第23回全国大会

大会テーマ：アジアの英語教育と英語教科書

日時：2008年7月5日（土）10:00 - 17:40

場所：金沢学院大学

プログラム

総合司会：ジェイムズ・ダンジェロ（中京大学）

会場校挨拶：

梶木裕（金沢学院大学 文学部長）

開会の辞：

川畑松晴（大会実行委員長 金沢学院大学）

会長挨拶：

本名信行（青山学院大学）

特別講演

江利川春雄（和歌山大学）

「日本の英語教科書に見られるアジア」

会員総会

研究発表 司会：三宅ひろ子（青山学院大学）

“Development of English Language Education in Ethnic Minority Groups in China: Current Situation and Problems in the Case of Inner Mongolia Autonomous Region”

Goihan（お茶の水女子大学大学院）

「ESSC 作品の特徴的な文法・語法に関する
—考察—

岡裏佳幸（福岡工業大学）

「非母語話者の英語への寛容度をいかに高めるか
—高等学校での授業実践と調査報告—

白川尚志（学習院高等科）

「言語景観 —多言語表示に見る日本—

齋藤智恵（国際医療福祉大学）

第2回 ESSC 報告・受賞作品発表会

シンポジウム

「南・東南アジアの英語教科書から
見えてくるもの」

司会：相川真佐夫（京都外国語短期大学）

発題者：

「ベトナムにおける英語教育の理想と現実：
指導要領と教科書と現場教師」

八田玄二（椋山女学園大学）

「カンボジアの教科書：

わが国とは好対照の例から何を学ぶか」

川畑松晴（金沢学院大学）

「バングラデシュの国定教科書に見られる
傾向の考察」

室井美稚子（清泉女学院大学）

閉会の辞：河原俊昭（京都光華女子大学）

懇親会（金沢エクセルホテル東急）

J A F A E 全国大会報告

第23回全国大会を振り返って

河原俊昭（京都光華女子大学）

第23回全国大会は金沢の金沢学院大学で7月5日に開催された。金沢で開催されたのは、2回目である。第1回目は2001年の12月に金沢経済大学で開催された。全国大会が東京・大阪といった大都市だけではなく、近年は地方都市でも開催されることが多くなってきたが、これは本学会の会員が全国的な広がりを見せて、学会が順調に発展している証左として非常に喜ばしいことである。

当日の特別講演は、江利川春雄氏（和歌山大学）による「日本の教科書に見られるアジア」であった。江利川氏は『近代日本の英語科教育史』（東信堂）の執筆者として有名であるが、膨大な資料を駆使した講演には強い説得力があった。講演の前半は教科書の持つ政治性について語られ、何気なく読んでしまうロビンソンクルーソーの話などに植民地主義が投影されていることを指摘された。後半は教科書のコーパスを比較して、日本

では中国や韓国と比較して語彙の数が抑えられていること、ネイティブの編集した教科書には、消化しきれないほどの多数の新出語彙が出てくることなど、いくつかの興味深い事実の指摘があった。

午後には、4件の発表があり、いずれも充実した内容であった。まずゴイハン氏（お茶の水女子大学大学院）が「中国少数民族地域における英語教育の現状と課題」を発表された。同氏はモンゴル語で挨拶をしてのち、モンゴルにおける教育言語政策（英語、中国語、モンゴル語）の実情について報告された。続いて岡塚佳幸氏（福岡工業大学）が「ESSC 作品の特徴的な文法・語法に関する一考察」で、ESSC 作品に対する母語の影響、不定冠詞の用法の特徴などについて論じられた。白川尚志氏（学習院高等科）は「非母語話者の英語への寛容度をいかに高めるか」で、世界の諸英語を授業の中で説明することで、生徒たちの寛容度が高まった事例を提示された。齋藤智恵氏（国際医療福祉大学）は「言語景観」について、top-down と bottom-up という2つの対照的な傾向が見られることを指摘された。続いて第2回 ESSC の報告があったが、第1回目の時よりも応募者がかなり増えており、この企画の趣旨が全国的に理解されつつあるとのことである。



最後に、シンポジウム「南・東南アジアの英語教科書から見てくるもの」が開催された。相川真佐夫氏（京都外国語短期大学）が司会を務め、八田玄二氏（椋山女学園大学）、川畑松晴氏（金沢学院大学）、室井美稚子氏（清泉女学院大学）の3氏が順次、ベトナム、カンボジア、バングラデシュの教科書の特徴について述べられた。教科書の実物が会場に回覧されたが、日本の教科書と比べれば地味な体裁ではあるが、それぞれの国

の英語教育への熱い思いが伝わってくるように感じられた。発表者のそれぞれが、丹念な現地調査を踏まえており、どのようにして各国の知見を日本の英語教育に反映させるか説明があった。

最後に個人的なことを一言。今まで事務局員として忙しく、なかなか会場に入れなかったが、今回は特別講演、発表、シンポジウムとすべて聞くことができた。これは私自身にとって久しぶりのことであり、全国大会の発表の面白さや水準の高さを改めて確認できて楽しい思い出となった。

特別講演レビュー

日本の英語教科書に見られるアジア



江利川春雄氏（和歌山大学）

相川真佐夫（京都外国語短期大学）

日本「アジア英語」学会のこれまでの基調講演を遡ると、アジアの英語使用および英語教育について、国際比較の目で研究するアプローチが大半を占めてきたのではないだろうか。今回江利川春雄氏に戴いた基調講演は、これまでとは異なる「歴史的な目」すなわち、通時的アプローチでアジアを研究するものであった。

江利川氏の講演内容はおおよそ2つの部分からなっている。前半は、明治時代以降から現在までの英語教科書の題材、挿絵、言語教材を通し、そこに映ったアジア像により、日本人のアジア認識がどのように形成されているのかを考察するものである。大きく分けて4つの時代区分が提示されていたように思う。

第1期は明治初期、アジアを脱ぎ捨て西洋に

倣おうとする時代であり、福沢諭吉の脱亜論に代表されるように西洋世界に憧憬した時代背景を持つ。提示された挿絵は英語で書かれた地理の教科書であったが（当時はそのような教科書を通じて英語を学んだそうである）、文明開化された白人に対比された日本を「半開人（half-civilized）」として位置づけるものであった。「外国人を警戒し、自国の女性を奴隷扱にする」という表現で説明されたアジア・日本に当時の人達は大きな白人コンプレックスを抱いたであろう。

第2期は日本のアジア支配を謳う帝国主義が現れる時代であり、日清戦争以降太平洋戦争までがそれにあたる。江利川氏は特にこの時代については更に細かく日露戦争、韓国併合、日中戦争、満州事変などの歴史的出来事を区切りとして英語教科書を示してくださった。軍服を着て日章旗を掲げる小学生、日中戦争から凱旋帰国する日本兵、tank、gun などといった軍事用語を言語材料とした教材、Japan から Nippon への変換など、帝国主義ナショナリズムの昂揚を意図した教材には思わず目を覆いたくなるようなものが描かれていた。

第3期は敗戦後から70年代にかけて、アメリカ辺倒、すなわち英語を学ぶことがアメリカを学ぶことを意味した時代である。ジャックとベティが手をつなぎ、ハンバーガーとビッグサイズの飲み物が描かれている。多くの若者がアメリカに憧れたはずである。その間、英語教科書からアジアが消えた。ベトナム戦争の新聞報道がこの時期と重なるとは皮肉なものである。

最後に、第4期は80年代から現在に至り、アジアが隣人として、異文化理解の最も身近な相手として描かれている時代である。この時代の英語教科書には日本人との友好関係を表現するアジアが登場する。一方で、過去に日本が行ったアジア支配の罪を載せた題材が政治的圧力により自主訂正を迫られた事実も披露され、アジア認識の不条理を氏は指摘された。

後半は小篠敏明氏（福山平成大学）等との共同研究により行った英語教科書の計量分析のデータ（総語数、新語数、何語に1語新語が出てくるか）が提示された。ここで分析された教科書は日本で使用された過去の英語教科書と韓国、中国の教科書の比較データである。過去にネイティブ主

導で日本の事情を鑑みず作成された教科書は日本の学習者には合わなかったこと、歴史を経て徐々に語彙量が減少されていること、海外の教科書と比較し分量が少ないことなどが浮き彫りにされた。しかしながら、江利川氏は国際比較による厚さについて、単純に分量の多少で日本の英語教科書の改訂を求めるのではなく、実際に無理なく教授可能か、学習可能かどうか、さらにはクラスサイズの縮小や教員増などの条件整備を踏まえた上での改訂にしなければならないと過日の教育再生懇談会の第一次報告に警笛をならした。

歴史研究というものは古書店に入った瞬間に鼻に入るカビ臭さを感じるものだが、講演の内容は我々の耳には斬新かつ目からウロコものであったことは誰もが感じたことであろう。英語教育史という本学会と交わるべき新たな学際的分野を感じる機会であった。

金沢での全国大会に参加して

白川尚志（学習院高等科）

初めて全国大会に参加し、僭越ながら研究発表もさせていただきました。これまでに書物や論文の中で知ってきた先生方を前にしての発表で大変緊張しましたが、終了後は多くの方から気さくに声をかけて頂き、大いに勉強に励みになりました。また「アジア英語」という枠組の中で幅広く研究がなされていることを知り、多彩な研究を受け入れている所がこの学会の魅力だと感じました。今後も学会のために貢献していければと思っております。

第2回 ESSC (The Extremely Short

Story Competition) を終えて

実行委員長 竹下裕子
(東洋英和女学院大学)

第2回 ESSC は、2007年5月15日より12月25日まで開催し、無事に終了いたしましたので、ご報告をさせていただきます。あらためてご紹介する必要もないとは思いますが、ESSC は Peter Hassall 氏（アラブ首長国連邦ザイード大学）の発案によるもので、「極めて短いストーリー」を通じて英語学習者のライティング力の向上をめざ

すことを主な目的とした創作活動のコンテストです。

第1回と第2回の違いは、第2回を日中国際大会としたことです。第2回 ESSC の実行委員は、岡裏佳幸、三宅ひろ子、藤原康弘、鈴木夏実、竹下裕子各会員が務めました。2007年6月22日より24日まで中国・ハルピンの Harbin Institute of Technology で開催された The International Association for Intercultural Communication Studies の大会において実行委員が ESSCに関する研究発表を行ない、中国の英語教員に理解と支援を求めたことが、日中国際大会の発端でした。

第1回と同様に、後援団体と賛助団体のお力をお借りし、第2回ESSCを円滑に進めることができました。第2回ESSCの後援団体は(株)エドベック、(株)大修館書店『英語教育』編集部、(財)日本英語検定協会、(株)アルク、(株)ベネッセコーポレーション、(株)Cambridge University Press Japan、以上6社、賛助団体は(株)ピアソン・エデュケーションでした。この機会にあらためて、心よりお礼申し上げます。

寄せられた応募作品総数は890作品、うち861作品を有効作品とみなしました。有効作品のうち、中高生による作品数は291作品でした。審査は3段階にわたって行ないました。第1段階の予備審査(実行委員会担当)と第2段階の本審査(学会理事有志担当)を経た優秀作品は、ザイード大学のPeter Hassall氏とアリゾナ州立大学のPaul Kei Matsuda(以上、特別審査員)、本名会長、竹下実行委員長の計4名が最終審査を行ない、受賞作品を決定しました。難しい審査をお引き受けくださいました特別審査員のおふたりと本名会長、たくさんのお審査進出作品を審査してくださいました理事審査員の皆様、大変に有難うございました。

審査部門は応募者の多様性に合わせ、①大学生・一般の部、②高校生の部、③中学生の部の3部を設け、それぞれの優秀作品を選定しました。入賞作品は以下のとおりです。

大学生・一般の部

日本「アジア英語」学会会長賞：MAO Shujunさん(中国・大連)の **Paper has the other side**
ピーター&ジョン・ハッサル賞：福文彦さん(東

京都)の **Wonderful morning**

優秀賞：宮良純子さん(沖縄県)の **Special Telescope**、深田由梨さん(神奈川県)の **The way of life**、関谷麗さん(東京都)の **The color of the earth.**、鈴木沙也加さん(神奈川県)の **A Happy Land**、伊藤有里菜さん(神奈川県)の **A Cup of Happiness**、福本京子さん(奈良県)の **beauty**、以上6編

優良賞：Y. J.さん(熊本県)の **Computers and English**、ほか5編

高校生の部

日本「アジア英語」学会会長奨励賞：A. A. さん(鹿児島県立志布志高等学校)の **Thank you**

ピーター&ジョン・ハッサル奨励賞：亀石浩俊さん(同上)の **Along the way**

ESSC実行委員会奨励賞：F. T. さん(同上)の **King lion's words to his son**

優秀賞：高橋俊英さん(東京学芸大学附属高等学校大泉校舎)の **Cherry tree in Washington D.C.**、N. K.さん(山梨英和高等学校)の **Child Soldier**

優良賞：山光瑛美さん(湘南白百合学園高等学校)の **Light messiah**、ほか2編

中学生の部

最優秀賞：高橋萌さん(兵庫県立芦屋国際中等教育学校)の **The Midnight Escape**

優秀賞：松永末紗子さん(同上)の **December, 24**、橋本真里恵さん(練馬区立北町中学校)の **One day**

優良賞：石川華穂さん(群馬大学教育学部附属中学校)の **Friendship***、ほか2編

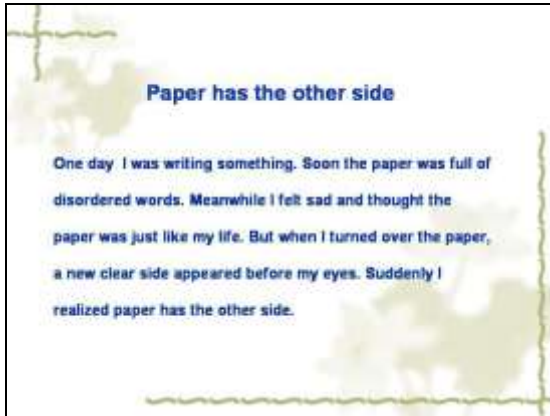
受賞作品はまず、学会ウェブサイトで発表し、2008年7月の第23回全国大会においても再度発表し、受賞者と受賞作品を称えました。受賞なさった皆さんにはあらためて大きな拍手をお送りします。そしてもちろん、受賞には至らなかった多くの作品にも、その健闘を称えさせていただきます。すべての入賞作品は、学会ウェブサイトをご覧ください。

<http://essc.fit.ac.jp/2007_award_work.html>

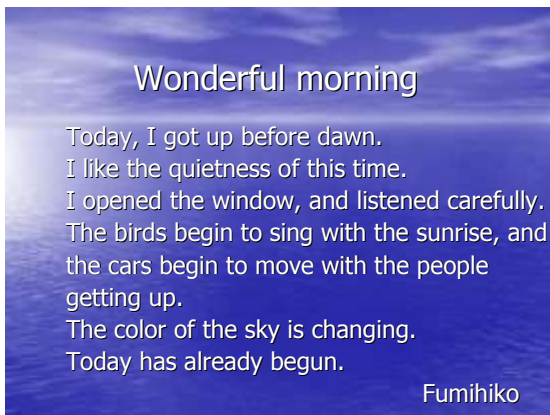
受賞作品のうち、大学生・一般の部においてもっとも優れた作品であると認められた2編と、高校生の部においてもっとも優れた作品であると

認められた3編のうちの1編をここに紹介します。

日本「アジア英語」学会会長賞：MAO Shujunさん（中国・大連）の **Paper has the other side**



ピーター&ジョン・ハッサル賞：福文彦さん（東京都）の **Wonderful morning**



日本「アジア英語」学会会長奨励賞：A. A. さん（鹿児島県立志布志高等学校）の **Thank you**



JAF AE・2008 年度海外研修報告

ロシア・ウラジオストク

橋内 武（桃山学院大学）

標記海外研修について、7月5日（土）の本学会第23回大会にて以下の通り報告した。

参加者 JAF AE 会員 9 名（世話人 竹下裕子理事）臼井、岡裏、齋藤、鈴木、竹下、津田、橋内（あいうえお順）、Lafaye, Soresi

目的: 14th NATE@7th FEELTA（第14回ロシア英語教師協会大会と第7回極東英語教師協会大会）への参加

大会テーマ: Building Bridges with Languages and Cultures（諸言語と文化への架橋）

学会会場: 極東国立大学（Far Eastern National University, Vladivostok）

旅行代理店: プロコ・エアサービス（担当・西田）一ビザ・フライト・ホテル等の手配

6月26日（木）

13:30 新潟空港 集合

15:50 新潟発 XF808 便

18:20 ウラジオストク着

空港から市内のホテルまで約45分

ビジット・ウラジオストク（3連泊）

6月27日（金）一学会2日目

10:30 参加登録（registration）

合計 210RUB（約10,500円）

（参加費、ビザ・サポート・レター代、学会紀要送付代を含む）

14:00~15:50

Panel: Current Interests among Japanese Researchers (JAF AE)

鈴木夏実: ESSC in University English Writing Classes: Motivating Students to Write

岡裏佳幸: Characteristic Grammar and Usage of ESS Works in Japan

齋藤智恵: English as a Japanese Language in Changing Langscapes

津田早苗: Non-native Speakers' Clarifications in Intercultural Conversations

竹下裕子: Linkage between English Courses and Others for Students' Better Learning

[15:00~15:40 卒業式 (Main Hall) に橋内が出席 (FENU は桃山学院大の提携校)]

16:00~16:25

Short Paper: English Issues in the French Business World, by Beverly Lafaye

Short Paper: Internalizing Theories Through an Analysis of Language Learning History by Yoshiko USUI (臼井芳子)

17:10~20:10 City Tour (市内見学)

会場よりバスに分乗、展望のきく岬・鉄道駅構内・潜水艦・ケーブルカー駅などを訪ね、丘の上から港湾と島々を展望、中央広場で解散した

21:30~22:50 夕食 (Korea House) -JAF AE 会員 9 名で一室与えられ、盛り上がる

6 月 28 日 (土) -学会 3 日目

9:30~10:20

Concurrent Plenary: A Sociolinguistic Approach to the Study of Language Behavior in Cross-cultural Communication by Yuxin Jia (ハルピン)

11:05~11:55

Paper: Using In-class Speech Tests to Develop Oral Proficiency by Steven Soresi

11:30~13:00

Russian Orthodox Church Visit (ロシア正教教会訪問) [自由参加] (ロシア正教教会の盛衰・再建、ドーム・イコン・聖歌・鐘楼)

16:00~17:40

Closing plenaries (Main Hall)

1. Shaping the Way We Develop Professionally by David Fry (Children's Performance: English songs and skit)

2. English-Russian Interaction: Refashioning Cultural Values and Assumptions by Alexandra Rivlina

Closing (閉会式、学会関係者への謝辞、各後援団体代表の挨拶)

19:10~19:25 Raffle (富くじ) 英米出版社協賛

19:30 学会会場 (大学) よりレセプション会場 (海軍会館) に徒歩で移動

20:00~22:00/22:30 Farewell Reception (懇親会、The Navy Hall) (1,000RUB)

JAF AE よりダルマを FEELTA へプレゼント、ダンスが始まる

6 月 29 日 (日)

ホテル 10:50 発 空港へ [樺太残留韓国人女性 (78 歳) に会う。]

ウラジオストク空港 14:50 発 XF807

新潟空港 14:20 着 (実際は 30 分程度遅れ) 帰国直後解散

・学会参加者 500 名、そのうち海外からの参加者 48 名、日本から最多の 20 名 (在日外国人を含む) を占めた。日本の学会としては、JAF AE と JALT が存在感を示した。

<良かった点>

①JAF AE 会員 8 名の研究発表を通じて、日本における研究の成果を知ってもらえる機会が得られたこと、②JAF AE からの参加者同士が互いに啓発し合い、親交を深めることができたこと、③ロシア人やロシア在住の米人教師や海外からの参加者と交流することができたこと、④1992 年の民主化後のロシアの現状 (旧態然とした空港設備・その狭さ、アルコール依存と喫煙の野放し、地下道に物乞い、トイレに紙がないこと、日本製中古車、凸凹道、正教会の再生、ATM やカフェテリアなど) を観察することができたことは収穫である。

<悪かった点>

・過去の JAF AE 海外研修 (例えば、フィリピン、台湾・タイ) とは異なり、学会参加が主目的であったため、当該国における英語教育の現状を直接知る機会がほとんど得られなかったのは残念である。地元の英語教育関係者はこの学会に忙殺されていたという面があり、致し方あるまい。

お知らせ

・次回の FEELTA (第 13 回大会) は 2 年後の 2010 年 6 月下旬にハバロフスクで開かれるという。ロシア再訪の機会とするのもよいかもれない。

国立療養所菊池恵楓園入所者と英語(1)

岡村 徹 (帝塚山学院大学)

全国に 13 ある国立療養所の一つ、熊本にある菊池恵楓園を訪れ、戦後の英語教育について入所者に面接を試みた。決して語られることのなかった療養所の英語教育について報告する。

1996 年、「らい予防法」が廃止された。2001

年には、熊本地裁が「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟で、原告勝訴の判決を下した。このとき国は控訴をしなかった。つまり、国が過去の隔離政策の過ちを認め、原告が全面勝利をしたわけである。1940年代に米国の学者がハンセン病に有効なプロミンを開発してからは不治の病ではなくなった。同時に、国際的な動向を見れば、隔離政策がいかに時代錯誤であったかが素人目にもわかる状況であった。

「らい予防法」が廃止されたとは言え、差別がなくなったわけではない。2003年の11月、熊本県にある黒川温泉「アイレディース宮殿黒川温泉ホテル」で起きた、ハンセン病回復者宿泊拒否事件は記憶に新しい。

現在、国は盛んに啓発を行っている。恵楓園の自治会も啓発活動を精力的にこなしている。療養所を見学を訪れる学校も多い。また、ハンセン病回復者による講演活動も活発である。現在は、隔離の必要はないし、一般の病院の皮膚科で保険治療が受けられる。感染力はきわめて弱く、過去に、療養所で働いてきた医師や看護師、さらに職員の中に感染した事例はない。国民一人一人が直視しなければならない問題で、無知でいることは新たな差別を生むと考える。

ある入所者に園内で行われた英語学習について聞き取りをした。以下はその要約である。被験者は恵楓園に入所して50年以上が経つ。英語教育を受けたのは戦後、昭和23年前後のこと。学んだ場所は恵楓学園の分校。戦時中、英語は敵性言語として位置付けられたが、戦後は教育基本法に基づき再開された。被験者が英語を学習したときの年齢は、17~18才のときで約2年間英語を勉強した。授業で用いた教材は、*Jack and Betty 1~3*。週2コマで、1回が50分授業。出欠の確認はなく、授業に出るのも義務ではなかった。クラスは14~15人程度。試験や小テストのようなものはなく、成績も出なかった。当時は、「読む・書く」という作業が中心で、「話す・聞く」を重視する時代ではなかった。園内でも今の時代におけるように英語母語話者の英語を聞いて勉強したり、英語のテープを使うということもなかった。宿題は出されたが、ガリ版印刷のプリントがよく配布されたのを覚えているという。英語能力

を生かして社会で活躍する入所者は特にいなかったようだが、英語を学習できたことは大変意義深い。

教師は、社会福祉の専門家、杉村春三先生であった(写真、杉村純氏提供)。杉村春三は、明治43年に函館に生まれた。昭和26年から昭和34年まで熊本にある、リデルライト記念養老院長を務めた。関係した公職は数多く、表彰も多く受けている。



杉村氏は、健常者と患者を分け隔てた施策を模索することは最終解決にはならないという強い信念を有していた。例えば、患者の教育について、「...療養所内の教育施設を利用せねばならないような児童期、青年期患者が、陸続と発生するような事態は、全力をつくして抑制す可きだと思う。」(杉村春三著(2007)『新版 癩と社会福祉—らい予防法廃止50年前の論考—』金壽堂出版、279頁)と述べ、自身の考えを記している。療養所は、社会に復帰するための、あくまでも中間的な施設であると捉えている。いずれは故郷に戻り健常者と同様の福祉サービスを当該地域社会から享受すべきであると示唆している。

杉村氏はフィールドワークを重視し自身も数々の患者を取り巻く現場を観察してきた。同時に、学際的な視点からこの問題の解決を図ろうとした。ご夫人である、杉村よしこは夫の心を突き動かししたのは、あるハンセン病家族の残された老人が養老院への入所を断られ、自死したことが契機となっていると述べている。

熊本では進駐軍専用の図書館で、欧米の社会学や福祉関係の文献を勉強した。当時は、感染を防

ぐために防護服を着て授業をする教師が少なくなかった時代である。また、他の療養所の中には、モールス信号を用いて職員室にいる教師を呼び出していたところがあるくらい隔離が徹底されていた時代だが、杉村氏は防護服なしで授業を行っていたという。このことは多くの患者を励ましたに違いない。杉村氏は、社会福祉の分野で多くの業績を残して来た人物である。国内外の療養所で職員として勤務した実績があって、それが入所者の福祉の向上に目を向けさせた。加えて、社会福祉に関する欧米の文献を幅広く読みあさっていたことも、杉村氏の福祉観を形成したと言える。患者の福祉向上のためにしばしば東京を訪れ陳情を行ったという。残念ながら、杉村氏が理想としていた福祉行政とは大きくかけ離れたものであったが、ハンセン病家族のために設立されたリデルライト記念養老院は今日に至っている。

入所者がハンセン病の治療を受けながらも、英語を学んだことは一生の財産であるし、杉村氏に英語を習ったという事実も同様である。(次号に続く)

新 刊 書 籍 紹 介



Metaphors for Learning: Cross-cultural Perspectives

Edited by Erich A. Berendt,
Seisen University, Tokyo
John Benjamins Publishing
Company

In Contemporary Metaphor Theory (CMT) research has predominantly focused on the English language with few studies of others and even less systematic comparative work. This volume focuses on the discourse domain of LEARNING (formal, technical and informal aspects) and brings together a variety of language perspectives, some specifically comparative, on aspects of learning from historical transformations in metaphoric language use through contemporary social values and classroom discourse to planning for the future in

educational policy to see how conceptual metaphoric patterns and conventional metaphors with related figurative language impact on social values and culturally conditioned perspectives in learning. Most papers reflect Lakoffian conceptual metaphoric research including critical evaluation of analytical issues. Languages included are Arabic, Chinese, English, Hungarian, Japanese, Malay, Polish, Russian and the South African language area. Most papers utilize extensive data including such genre as technical writing, essays, conversational interaction, newspaper corpus and proverbs.



『スピーチ・プレゼン・ ディベートに使える 英語表現集』

本名信行・竹下裕子共著
ナツメ社

紹介者：岡裏佳幸（福岡工業大）

本書は、スピーチ、プレゼン、ディベートの解説書。まず、Part 1 英語スピーチのコツとポイントでは、スピーチの論旨の組み立てを説く。各節では、要点説明の後に具体例を挙げ、重要語句の用例を示す。Part 1 でスピーチの概略を理解できる。より実践的な Part 2 場面別サンプルと実践フレーズでは、学術、ビジネス、日常生活等、様々な場面のスピーチ例を挙げ、導入、本論一展開、結語に分けて解説する。「すぐに使える入れ替え実用表現」では、複数の類似表現を習得できる。apparently と it is apparent の違い等、語法の盲点を解説する「ここがポイント!!」も役に立つ。「コラム」は異文化間コミュニケーションに関するエッセイ。興味深い。日英両言語を併記したアルファベット順索引と五十音順索引は、ミニ英和辞典、ミニ和英辞典の機能を果たす。Soresi 氏らのナレーションも聞き応えがある。スピーチ、プレゼン、ディベートのフルコースと言えよう。

事務局からのお知らせ

1) 第24回全国大会の研究発表者募集

第24回全国大会を12月6日(土)に青山学院大学(東京都渋谷区)で開催します。

第24回全国大会研究発表者募集

第24回全国大会(2008年12月6日(土)於青山学院大学)で研究発表を希望される会員は、アブストラクト(日英どちらか)をA4 Word文書1枚にまとめ、9月30日(火)までに事務局に電子メールの添付にてお送りください[jafae@live.jp]。審査を経て発表者を決定いたします。

CALL FOR PAPERS

for the 24th National Conference on December 6th, 2008 at Aoyama Gakuin University.

Please submit a 1-page abstract as MS Word attachment by September 30, 2008, to the JAF AE Secretariat at [jafae@live.jp]. All submissions will be carefully reviewed.

2) 2009年度研究助成プログラムへの申請募集(予告)

2009年度に支給する研究助成プログラムへの申請を12月1日より12月20日に受け付けます。選考委員会による申請書類の審査を経て、理事会が助成対象者を決定し、2009年2月28日までに応募者に対して選考結果を文書で通知する予定です。助成総額は10万円です。応募資格、応募要領の詳細は、学会HPをご参照ください。

会計・会員管理担当より

1) 第23回全国大会にあわせて会員名簿を更新いたしました。現在、住所不明となっている会員は次の通りです。

ト剣鋒 Derrick Nault Tina Ferrato

異動・転居などで連絡先の変更が生じた場合には、事務局までお知らせいただければ幸いです。

2) 今年度の会費を納めていない方は納入方お願い致します。

会費は、一般会員5,000円、学生会員3,000円。郵便振込先は、

加入者名：日本「アジア英語」学会

口座番号：00280-8-3239 です。

3) 総会時に承認された会計報告と予算です。
(会計・会員管理担当・樋口謙一郎)

日本アジア英語学会 2007年度決算

収 入 (円)			
費目	2007年度 決算額(A)	2007年度 予算額(B)	増減(A-B)
年会費	870,239	1,075,000	△204,761
全国大会参加費	63,000	200,000	△137,000
(第21回京都光華女子大)	(63,000)	-	
(第22回熊本学園大)	(0)	-	
モノグラフ紀要売上	43,400	40,000	3,400
大会補助金 (京都光華女子大)	49,660	100,000	△50,340
その他(貯金利息・ 助成金など)	6,034	0	6,034
15周年記念事業積立金	0	150,000	△150,000
ESSCガイドブック売上	20,000	20,000	0
前年度繰越金	189,153	189,153	0
合計	1,241,486	1,774,153	△532,667

支 出 (円)			
費目	2007年度 決算額(A)	2007年度 予算額(B)	増減(A-B)
通信費	167,719	200,000	△32,281
ニュースレター印刷費	206,970	190,000	16,970
紀要制作費	178,815	200,000	△21,185
文房具	1,029	10,000	△8,971
全国大会	74,355	300,000	△225,645
人件費	29,200	50,000	△20,800
インターネット利用料	25,935	25,000	935
ウェブサイト保守・管理	60,000	60,000	0
印刷代	14,180	30,000	△15,820
事務局運営費	30,000	100,000	△70,000
モノグラフ補助費	0	100,000	△10,000
研究助成金	0	100,000	△10,000
15周年記念事業積立金	150,000	150,000	0
ESSC事業費	53,600	200,000	△146,400
次年度繰越金	249,683	59,153	190,530
合計	1,241,486	1,774,311	△532,667

15周年記念事業 積立金残高	150,000
-------------------	---------

上記の通り。ご報告いたします。

2008年7月5日 会計 加藤三保子

2007年度決算報告の監査を行った結果、適正であると認めます。

2008年7月5日 会計監査 矢野安剛
会計監査 森住 衛

日本「アジア英語」学会 2008 年度予算

収 入 (円)			
費目	2008 年度 予算額(A)	2007 年度 予算額(B)	増減(A-B)
年会費	1,090,000	1,075,000	15,000
(正会員 200 名)	(1,000,000)	(1,000,000)	(0)
(学生会員 20 名)	(60,000)	(45,000)	(15,000)
(法人会員 1 名)	(30,000)	(30,000)	(0)
全国大会参加費	150,000	200,000	△50,000
モノグラフ・紀要売上	40,000	40,000	0
大会補助金	100,000	100,000	0
15 周年記念事業積立金	0	150,000	△150,000
ESSC ガイドブック売上	20,000	20,000	0
前年度繰越金	249,683	189,153	60,530
合計	1,649,683	1,774,153	△124,470

支 出 (円)			
費目	2008 年度 予算額(A)	2007 年度 予算額(B)	増減(A-B)
通信費	180,000	200,000	△20,000
ニュースレター印刷費	200,000	190,000	10,000
紀要制作費	200,000	200,000	0
文房具	5,000	10,000	△5,000
全国大会	300,000	300,000	0
人件費	40,000	50,000	△10,000
インターネット利用料	25,000	25,000	0
ウェブサイト保守・管理	60,000	60,000	0
印刷代	30,000	30,000	0
事務局運営費	80,000	100,000	△20,000
モノグラフ補助費	80,000	100,000	△20,000
研究助成金	100,000	100,000	0
15 周年記念事業積立金	100,000	150,000	△50,000
ESSC 事業費	100,000	200,000	△100,000
次年度繰越金	149,683	59,153	90,530
合計	1,649,683	1,774,153	△124,470

15 周年記念事業 積立金残高	250,000
--------------------	---------

紀 要 委 員 会 か ら

- ・ 紀要の投稿規程の一部が下記のように変更になりました。
 1. 最終原稿の提出はこれまでの FD から CD (CD-RW か CD-R) に変更
 2. 注・参考文献はこれまでの MLA から APA の書式に変更
 - ・ 現在、本学会紀要『アジア英語研究』第 11 号の原稿を募集しております。
- 会員の皆様には奮ってご投稿下さい。

メーリングリストの復活

学会のメーリングリスト (以下 ML) が復活し

ました。学会員のコミュニケーションの場は年 2 回の大会、年 3 回のニュースレターですが、さらに学会員のコミュニケーションの場所を増やすことができればと思います。アカデミックな情報のやりとりから、質問、世界の事情交換、四方山話まで公序良俗の範囲内で ML を活用してください。登録は希望者のみの登録としております。ML 登録希望者は、ご氏名と登録するメールアドレスを相川 (aikawa@nnc.or.jp) までお送り下さい。なお、ML 投稿は jafae-ml@jafae.org です。

ニュースレター編集担当より

JAF AE ニュースレター 26 号は 10 月下旬発行予定です。会員の皆様から記事を募集致します。国内外の紀行文、書籍紹介、海外おもしろ情報など「アジア」「英語」「言語」周辺をキーワードに、800~1,200 字程度で奮って投稿下さい。画像なども是非ご投稿ください。

書いてみようというご意志がありましたら、9 月中旬までに編集担当 (相川) までお知らせください。アドレスは aikawa@nnc.or.jp

【編集後記】

この夏是北京オリンピック、スポーツだけでなく言語ネットもいっぱいあると期待して見ようかな、と思っています。

2008 年 8 月 1 日発行

編集・発行 日本「アジア英語」学会

代表者 本名信行

編集長 相川真佐夫

印刷 (有) すすぎ印刷

事務局

〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 32

東洋英和女学院大学国際社会学部

竹下裕子研究室内

Fax: 045-922-6642 E-mail: jafae@live.jp

学会ホームページ: <http://www.jafae.org>

年会費振込先: 郵便振替 00280-8-3239

<< JAF AE Secretariat >>

Prof. Yuko Takeshita

Faculty of Social Sciences, Toyo Eiwa Univ.

32 Miho-cho, Midori-ku, Yokohama-shi,

Kanagawa 226-0015 JAPAN

FAX: +81-45-922-6642

E-mail: jafae@live.jp

JAF AE's homepage: <http://www.jafae.org>

JAF AE's postal transfer account number:

00280-8-3239